

番号	学校名
30-3	千葉県立館山総合高等学校

## 平成30年度スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール研究実施報告（第1年次）（概要）

<b>1 研究開発課題名</b>	教科「家庭」の学びをコミュニティ再生に生かす地域共創人材育成プログラムの開発～地域の生活を支え、地域の賑わいを創り出す「まちカフェ」プロジェクトへの挑戦～
<b>2 研究の概要</b>	<p>地域や社会の課題を見だし、その解決に向けて、生涯にわたり家庭科の専門的な学びをコミュニティ再生に生かす地域共創人材を育成するため、次のような取組を行う。</p> <p>①コミュニティの再生・活性化及び生活の質の向上を目的とした「まちカフェ」に挑戦する。「まちカフェ」の運営にあたっては、「減災活動」、「交流」、「食のまちPR活動」、「地域の魅力発信」の4つのフィールドを取り上げ、館山市を中心に、NPO団体や社会福祉法人等各機関と連携し、次代の郷土をつくる人材の育成や学校を核としたまちづくりを一体的に進めていく。</p> <p>②協働型・双方向型や課題解決型学習を柱とした教育プログラムの開発を行う。その際、大学等の協力を得て、学習過程に地域での実践の場「まちカフェ」運営を位置付けたり、学年縦断型の学び合いを取り入れたりすることにより、知識のより深い理解や技能の習熟や課題解決能力、主体的に学ぶ力の育成を図る。</p> <p><b>(1) 協働型・双方向型学習を取り入れた主体的に学ぶ力の育成</b></p> <p>(ア) 学習成果のプレゼンテーションや幼稚園で発表する劇りハーサルを、全学年の家政科生徒で実施し、3学年での到達点を1学年からイメージさせる学び合いの機会とする。</p> <p>(イ) 学年を超えた生徒同士の話し合いや教え合い、コーチング力を育成する授業を導入する。</p> <p>(ウ) 様々な人との協働、双方向のやりとりにより、生徒が思考を広げ深めていく学びを学習過程に位置付ける。</p> <p><b>(2) 地域での実践の場を学習過程に位置付けた効果的な課題解決型学習の実施</b></p> <p>(ア) 地域の関係者と共にまちづくりや地域活性を意識した講座やイベントを考える授業の実施</p> <p>(イ) 家庭科の専門科目、単元別に「学びの足跡」ワークシートを活用し、生徒の資質向上を自覚する取組を実施する。また各々の変容をたどる。</p> <p>(ウ) 校内カフェ、出張カフェ、まちカフェ実施後にも「学びの足跡」ワークシートで振り返りをさせ、各々の資質における課題発見・解決につなげる。</p> <p><b>(3) 「まちカフェ」の運営</b></p> <p>(ア) 講座を開催するまちカフェを実施するために知識・技術を養う講習会</p> <p>(イ) 講座を開催するまちカフェを実施するために地域の関係団体・関係者を訪問し学習の機会を設定</p> <p>(ウ) 講座を開催するまちカフェを実施するために課題研究で調査研究改善を実施</p> <p>(エ) 「まちカフェ」の運営</p> <p><b>(4) 評価方法の開発</b></p> <p>(ア) ルーブリック等の絶対評価による判断基準表を作成</p> <p>(イ) 生徒の資質・能力をはかるアンケートを実施</p>

### 3 平成30年度実施規模

家政科を対象として実施した

### 4 研究内容

#### ○研究計画（指定期間満了まで。5年指定校は5年次まで記載。）

第1年次	<ul style="list-style-type: none"><li>・協働型・双方向型学習を取り入れた主体的に学ぶ力の育成</li><li>・地域での実践の場を学習過程に位置付けた効果的な課題解決型学習の実施</li><li>・「まちカフェ」の取り組み</li><li>・評価方法の開発</li></ul>
第2年次	<p>1年目の事業を継続し、それに加えて 研究開発を深化させ、以下の内容を重点的に開発していく。更に、生徒を積極的に地域での活動に参加するように促し、講座を開いたり発表したりする機会を増やす。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ボランティア活動を学校設定教科・科目とし、出張カフェ等の参加をはじめ各種社会貢献活動を学習として位置付ける。</li><li>・持続可能なまちカフェの構想</li><li>・地域の関係者と共に地域活性を意識した講座やイベントの開催</li><li>・ICT活用，WEB情報発信</li></ul>
第3年次	<p>1年目・2年目の事業を継続し、それに加えて 生徒が自主的に地域課題を見だし、解決の糸口を見つけられるセンスを育む。急激な社会の変化に柔軟に対応し、様々な人々と共に支え合う生活産業を担う専門的職業人の人材育成を目指し、研究成果を県内外の家政科高校へ広める。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・商店街の空き店舗等を地域の関係者と共に地元商店街の空き店舗等を活用したまちカフェを開設</li><li>・運営して見いだした課題を解決・改善する実践を行い、まちカフェ運営を充実させる。</li><li>・同様の課題を抱えている他地域の高校との交流</li></ul>

#### ○教育課程上の特例（該当ある場合のみ）

該当なし

#### ○平成30年度の教育課程の内容（平成30年度教育課程表を含めること）

家政科の教育課程表を別紙添付する。(別紙1)

#### ○具体的な研究事項・活動内容

##### (1) 協働型・双方向型学習を取り入れた主体的に学ぶ力の育成

(ア) 学習成果のプレゼンテーションや幼稚園で発表する劇リハーサルを、全学年の家政科生徒で実施し、3学年での到達点を1学年からイメージさせる学び合いの機会とする。

- ① 保育実習前リハーサル参観(6月12日)
- ② 選択科目別発表会(11月14日)

(イ) 学年を超えた生徒同士の話し合いや教え合い、コーチング力を育成する授業を導入する。

- ① 2・3年「調理」 鱈の三枚おろし
- ② 家庭科技術検定食物調理4級実技の補習を上級生が支援

- ③ 2・3年「調理」 オリジナルピタ作り
- ④ 2・3年「子ども文化」 パネルシアター選びを上級生が支援
- ⑤ 2・3年「ファッション造形」 ゆかたの柄合わせを上級生が支援

(ウ) 様々な人との協働，双方向のやりとりにより，生徒が思考を広げ深めていく学びを学習過程に位置付ける。

- ① 千葉敬愛短期大学生と協働学習(簡単工作)
- ② 防災パワーアップ講座にて，他校生とグループワーク
- ③ 災害救援ボランティア講座にて事務職員とグループワーク
- ④ スマートバーベキュー講座にて地域の方々と交流
- ⑤ 市子育て支援施設にておもちゃ作り講習会に参加する子ども・保育者と交流
- ⑥ 市図書館主催おはなし会にて参観する子ども・保育者と交流

## (2) 地域での実践の場を学習過程に位置付けた効果的な課題解決型学習の実施

- (ア) 地域の関係者と共にまちづくりや地域活性を意識した講座やイベントを考える授業を実施した。
- (イ) 家庭科の専門科目，単元別に「学びの足跡」ワークシートを活用し，生徒の資質向上を自覚する取り組みを実施する。また各々の変容をたどる振り返り授業を実施した。
- (ウ) 校内カフェ，出張カフェ，まちカフェ実施後にも「学びの足跡」ワークシートで振り返りをさせ，各々の資質における課題発見・解決につなげる取り組みをした。

## (3) 「まちカフェ」の運営

- (ア) 講座を開催するまちカフェを実施するために知識・技術を養う講習会
  - ① スマートバーベキュー講座(11月5日)
  - ② 防災パワーアップ講座(8月21日)
  - ③ 災害救援ボランティア講座(11月26日)
  - ④ おはなし会，パネルシアター講座(9月12日)
  - ⑤ 千葉敬愛短期大学教授より音楽表現講座(9月20日)
  - ⑥ 南総祭礼研究会より八幡祭礼について(9月11日)
  - ⑦ 観光の学び(1年学年行事 11月7日)
  - ⑧ ものづくりマイスター講師稲荷田先生よりジャケット製作実習(6月～11月 全9回)
  - ⑨ ものづくりマイスター講師長谷川浩司氏より和菓子講習会(9月11日)
  - ⑩ 家庭科教員視察(石巻被災地，多賀城高校，女川向学館 8月22日～23日)
  - ⑪ 産業教育フェア山口大会 SPH事業発表会参観(10月20日～21日)
- (イ) 講座を開催するまちカフェを実施するために地域の関係団体・関係者を訪問し学習の機会を設定
  - ① 館山市こども課(6月1日)
  - ② 館山市社会安全課(11月9日)
  - ③ 館山市元気な広場(10月23日)
  - ④ 館山市サークルレインボーコーラス(5月11日)
  - ⑤ 館山市サークル北条茶道会(5月11日)
  - ⑥ 館山特別養護老人ホーム(6月1日)
  - ⑦ 唐棧織作家斎藤裕司氏(6月29日)
  - ⑧ 須藤牧場(10月12日)
  - ⑨ CAFE TSUMUGI(10月23日)

(ウ) 講座を開催するまちカフェを実施するために課題研究で調査研究改善を実施

#### 1 学期

4つのフィールド(減災活動・交流・食のまちPR活動・地域の魅力発信)に関連したテーマを条件に一人1研究を行った。アンケートやインタビューを実施すること。成果物を作成することを条件とし、学んだ内容を模造紙にまとめた。

#### 2 学期

3～4人グループでテーマ別研究を実施した。その中の5講座を校内カフェで開催する。

#### 3 学期

校内カフェを終えて、評価・改善した内容を成果発表会で発表する。

(エ) 「まちカフェ」の運営

① 出張カフェ…11月4日(日)北条海岸BEACHマーケット出店、パウンドケーキ販売

② 第1回校内カフェ…11月30日(金) 5講座開催

講座名	内容
親子料理教室	野菜たっぷりマフィンとボンボンリゾット作り 簡単工作をして高校生と交流 パネルシアター上演
シニア向けストレッチ教室	避難所生活に備えて、段ボールトイレ、新聞スリッパ、消臭スプレーの紹介 音楽に合わせてストレッチ 高齢者向け料理の試食
防災講座	作成した防災マニュアル食物編Part2・安心カード紹介、オリジナル防災食の試食、校内の備蓄倉庫見学
地元料理開発	館山総合高校オリジナルさんがレシピの紹介、地元食材を使った創作レシピをグループで考案
地域の伝統技術	唐棧織の糸を使い、ポケットに刺繍をほどこしたトートバッグの作成(中学生対象)

③ 第2回校内カフェ……12月13日(木)放課後子ども料理教室

### (4) 評価方法の開発

(ア) ルーブリック等の絶対評価による判断基準表を作成

(イ) 生徒の資質・能力をはかるアンケートを実施

## 5 研究の成果と課題

○研究成果の普及方法(普及状況については、可能な範囲で、他校・他地域への波及効果などを記載すること)

学校ホームページにSPH関連の授業内容を掲載し、千葉県南部を網羅する房日新聞にSPH関連行事の記事を掲載依頼し、地域住民や地域関係者、高校関係者に情報提供している。

千葉県高等学校教育課程研究協議会(家庭)および千葉県産業教育関係高校連絡協議会研究協議会にて研究内容および成果をプレゼンテーションし、全県の家庭科教論と産業教育関係高校の校長や教育関係者に周知した。

○実施による効果とその評価(数値や客観的なデータ等も用いながら記載すること)

### (1) 協働型・双方向型学習を取り入れた主体的に学ぶ力の育成

実施前後にアンケートを実施し、各資質目標への到達度を数値化した。「授業に積極的に取り組んだ」と回答した割合は95.2%と高い割合であった。

協働型・双方向型学習を通して、主体的に課題を発見し、課題解決に向けて計画的に目標を定め実

行する力を重点評価したところ主体性 76.1%、課題発見力 61.3%、計画力・実行力 61.9%であった。この結果から、見つけようとする意欲はあるが、課題が発見できない、または見つけた課題を解決する手立てがわからないと判断する。次年度は学習に必要な力に敏感になり、課題解決力を育む授業プログラムを案出する。

学年を越えた学びの中で、下級生には傾聴力、上級生には下級生の状況から判断する力、学校外の方々からは相手の意見を尊重できる柔軟性等を評価した。結果は傾聴力 70.8%、状況判断力 52.6%、柔軟性 75.6%であった。状況判断力に課題があるとわかった。

## (2) 地域での実践の場を学習過程に位置付けた効果的な課題解決型学習の実施

「学びの足跡」ワークシート作りを通して、自らの資質を把握する分析力や課題発見力、課題に向けて解決策を模索する探究力、わかりやすくワークシートにまとめて伝える発信力について評価した。結果は分析力・課題発見力 61.8%、探究力 58.2%、発信力 61.2%だった。

## (3) 「まちカフェ」の運営

講座を開催するための計画力、講座の宣伝や内容をわかりやすく伝える情報発信力、来場者とのやり取りの中で臨機応変に行動できる柔軟性、公の場での適切な行動ができる規律性、感情に左右されないストレスコントロール力を評価した。

結果は計画力 60.6%、情報発信力 61.2%、柔軟性 61.2%、規律性 64.8%、ストレスコントロール力 66.7%であり、低い結果となった。初めての取り組みだったため、見通しが立てづらく主体性に欠けたためと考える。

## (4) 評価方法の開発

ループリック等の絶対評価による判断基準表を作成し、敬愛大学森島教授に監修していただき、「複数の先生の共通理解がとれ、生徒にもわかりやすい表現にしていく。」「頻度を評価に入れる。」「階層性のあるもの、類似する内容を整理する。」「内容を適宜修正しながら進めていく」などの指導をしていただいた。

生徒の資質・能力をはかる全48問に及ぶアンケートを実施した。同じ内容のものを年度末に行い生徒の変容をみとる。その結果から、次年度の研究内容の修正と質問内容の精査を行う。

## ○実施上の問題点と今後の課題

### (1) 協働型・双方向型学習を取り入れた主体的に学ぶ力の育成

異学年の学び合いでは、スムーズに交流ができるグループとできないグループの差があった。事前にパーソナリティーを踏まえたグループ編成が必要である。また、グループやペア編成は毎回固定せず、流動性を持たせると適度な緊張感のもと学習に前向きになると考える。今後は柔軟かつ綿密にグループ編成をしていく。しかし学校外の社会人との協働型・双方向型学習では、様々な人々と協働する素地を育む観点から、その場でのグループ編成としていく。

協働型・双方向型学習により、上級生も下級生にも学習意欲を向上させる動機づけになることがわかった。学習意欲をその場限りにせず、主体的に学ぶ力に移行させるための手立てを考えたい。まずは、協働型・双方向型学習後の学習において、意欲的になれたことを認識させる事後学習に重点を置く。

また生徒アンケートより、特に上級生が下級生の気質や個性および技術から、どのようにアドバイスをしたら良いか、その場の状況に応じて的確に行動する力に自信がないことが分かった。コミュニケーション力を育む事前指導を実施するなどの策を講じる。

家政科で習得した技術を活かす場として、他学科と連携し、他学科クラスの家庭基礎の被服・調理実習の補助をして、学び合いができる試みを実施したい。

## (2) 地域での実践の場を学習過程に位置付けた効果的な課題解決型学習の実施

まちづくりや地域活性を意識した講座やイベントを考える授業では、広く一般に「地域に住む高齢者のために」等献身的観点ではなく、具体的に身近で困っている〇〇さんを喜ばせたいという具体性を持ち取り組む必要性を関係者から教えていただいた。今後このような姿勢で取り組み課題解決につながることを認識していく。

「学びの足跡」ワークシート作成を学習指導計画に位置付ける。「学びの足跡」がパターン化しないように、構図を工夫させたり、身についた力を細分化させたりするなど工夫をしていく。また完成したものを生徒同士で共有したり、評価しあうグループ学習を取り入れる。この学習を通して様々な資質能力を認識し、課題解決力を高めていく。また地域での実践の場の回数を増やし、イベント後に課題を発見・解決し次につなげる研究をする。

## (3) 「まちカフェ」の運営

初めての校内カフェでは、講座開催することでどのような成果が得られるか、どの程度達成感や高揚感が得られるかなどのゴール地点を想像することができず、自主性に欠けた。次年度は今年度の校内カフェを参考に、講座テーマを設定する際に焦点をしぼる、地域住民にインタビューやアンケートをとり生の声を聴き内容を充実させるなどの手立てをとり、主体的に運営する力を育む。さらにICT機器を有効に利用し、情報収集及び情報発信を行い、地域内外に自分たちの活動を宣伝する。

出張カフェへの参加希望生徒が予想より少なかった。次年度はボランティア活動を学校設定教科・科目とし学習に位置付け、全国で高校生や若者がコミュニティーカフェを行っている施設や地域連携に取り組む学校を視察し情報を集め、魅力あるイベントを生徒主体で企画運営していく。また、地域の関係者と共に地域活性を意識した講座やイベントを開催する。

駅周辺や商店街の空き店舗問題など地域課題解決の方法とコミュニティ形成の構想を市・商工会・民間団体と共有し、持続可能で無理のないまちカフェ運営の方向性を構築する。

更に異学年混合で企画運営を行い、協働型・双方向型学習を取り入れたまちカフェ運営の研究をする。

## (4) 評価方法の開発

複数の担当者と生徒が分かりやすく活用しやすいルーブリック表になるように、内容を修正していく。生徒が相互に評価し合う方法や、評価から次の課題を見つけ、生徒たちが課題を共有しやすいワークシート作成などを構想する。